

宮廷やサロンで愛されたチェンバロ × 楽器の王様と称されるオルガン
二つの楽器の響きと共にバロック期の隠れた名作を味わう
トーク付きサロンコンサートシリーズ 第2期

Carl Philipp Emanuel Bach

— 音に乗せる感情の波 —

宮崎 賀乃子 (チェンバロ)

徳田 佑子 (オルガン)



C.P.E. バッハ (1714-1788) :
ヴェルテンベルク・ソナタ 第1番 イ短調 Wq.49-1
オルガン・ソナタ ト短調 Wq. 70/6
ロンド ハ短調 Wq 59/4
“われ汝に呼ばわる、主イエス・キリストよ” BWV Anh. II 73
(C. P. E. バッハによる編曲) 他
※曲目は事情により変更になる場合がございます

2023年 **11** 月 **3** 日 (祝・金)

松本記念音楽迎賓館 Aホール 東京都世田谷区岡本2-32-15

昼公演：14時30分 開演 夕公演：17時 開演 ※休憩なし60分程度
(両公演とも開演30分前に開場)

入場料：一般 3,500円 ペア 6,000円 (各回限定 25席 全席自由)

事前予約制

問い合わせ／入場申し込み
CembalOrgel音楽サロン事務局
salon.cembalorgel@gmail.com





松本記念音楽迎賓館 Aホール

～木のぬくもりを感じながら音楽を身近に～

バロック時代に愛用されていた鍵盤楽器、チェンバロとパイプオルガンとともに、お話を交えながら行う気楽なコンサートです。テーマにした音楽家の作品をより深く味わうためにも、チェンバロ、オルガンの両方で楽曲を紹介します。

ここ、松本記念音楽迎賓館でしか体験できない音楽浴をお楽しみください。

～深掘り！音楽サロン 第2期 に寄せて～

2021年秋に始動した「深掘り！音楽サロン」シリーズ。第1期（全3回）は17-18世紀ドイツの隠れた名作曲家の作品を、チェンバロとオルガンで様々な角度から深掘りして参りました。第2期は、ヨハン・セバスティアン・バッハにゆかりのある作曲家をテーマに、両楽器ならではの響きが楽しめる作品を厳選してお届けいたします。

初回は、ヨハン・セバスティアン・バッハの次男、カール・フィリップ・エマニュエル・バッハです。多感様式の代表的な作曲家としてバロック後期から前古典派の橋渡しをしており、鍵盤楽器を中心に幅広いジャンルの作品を遺しました。当時から高く評価されていた音楽家のひとりで、オルガン作品とチェンバロ（またはクラヴィコード）作品では響きの作り方や作風も異なり、聴き比べることで新たな発見もあることでしょう。エマニュエル・バッハによる巧みな感情表現の世界をどうぞご堪能ください！



宮崎 賀乃子 Kanoko Miyazaki *Cembalo*

東京藝術大学音楽学部器楽科古楽チェンバロ専攻卒業後、ケルン音楽大学大学院にてチェンバロ専攻修了。平成22年度文化庁新進芸術家海外研修派遣員。在独中にアンサンブルやソロでヨーロッパ各地の音楽祭に多数参加。東京藝術大学教育研究助手（古楽）を経て、同大学大学院博士後期課程に進学。フローベルガーの「組曲」を中心とした17世紀鍵盤音楽について研究し、博士号（音楽）を取得。併せて第2回台東区長賞を受賞。チェンバロを辰巳美納子、鈴木雅明、大塚直哉、シェティル・ハウグサン各氏に師事。また、室内楽をコンラート・ユングヘーネル氏に師事。日本チェンバロ協会所属。国立音楽大学非常勤講師。



徳田 佑子 Yuko Tokuda *Orgel*

国立音楽大学音楽学部音楽学学科卒業。東京藝術大学大学院古楽専攻（バロックオルガン）修士課程修了。オルガンを深井李々子、廣野嗣雄、大塚直哉、長谷川美保各氏に師事。2017年、第33回白川・イタリアオルガンアカデミーでピストイア賞を受賞。ソロおよび古楽アンサンブルの活動を行う傍ら、スウェーデン、オランダ、ドイツ他、各地のバロックオルガンによる講習会で研鑽を積む。これまでにイタリアとドイツでリサイタルを行った。東京藝術大学教育研究助手（古楽）を経て、現在、青山学院大学および日本バプテスト同盟捜真バプテスト教会（所属）、St. Michael Tokyo各オルガニスト。日本オルガニスト協会、日本オルガン研究会会員。

* 松本記念音楽迎賓館 アクセス *

＜東急田園都市線「二子玉川駅」よりバス利用＞
東急バス玉31系成城学園前駅行き：「岡本三丁目」下車
徒歩5分
東急バス玉30系玉川病院循環：「民家園」下車
上り坂を徒歩4分

＜小田急線「成城学園前駅」よりバス利用＞
東急バス玉31系二子玉川駅行き：「岡本三丁目」下車
徒歩5分



松本記念音楽迎賓館 アクセス



後援：日本チェンバロ協会